

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス猿のたまごリバーサイド		公表日		令和6年 9 月 18 日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		9	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		9			女性スタッフが少ないので、パートスタッフの雇用が必要。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		7	2	扉のレール程度のごぼこは有るが、現段階で利用者に対しての危険度は高くないと考えている。	バリアフリー化はされていない。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		9		朝夕の拭き掃除、除菌等に努めている。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		8	1	あまり広くはないが、活動内容等によって工夫して利用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		7	2		日々の業務に追われ、余裕がない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		9		行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		9		朝礼やミーティング、その他日常的に、気づいたことはすぐに発言できる風通しの良い環境づくりを心掛けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2	7		開所して間もないため、外部評価に充てる時間等の余裕がないが、区と相談の上、来年度は前向きに考えている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		9		東京都等からの案内で、受講可能な研修は積極的に行っている。	スタッフの人数が少ないため、必ずしも満足しているわけではない。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		9		HPでの記載。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		9		保護者からの意見や、面談時の行動観察により計画を立て、相談支援員や学校との共有を図るよう努めている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		9		児童の障害特性等を職員間で共有し、どのような支援が必要か検討会を行ったうえで支援計画を立てている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		8	1	計画書が出来た段階で、朝礼等で共有を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		8	1	フォーマルなアセスメントをベースとしてインフォーマルなアセスメントを使用し確認するよう日々の活動の記録は細かく取るよう努めている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		9		特に必要な項目を中心に設定しているが、日々の行動観察から気づいたことがあればその都度職員間で周知し支援方法について話し合っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		9		チームというほどのスタッフ数がないが担当するスタッフ間での立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		8	1	児童の反応を見ながら、日々工夫に努めている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		個別支援が必要な児童が多いが、可能な限り小集団での活動も交えながら計画している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	朝礼やミーティングの時間を大切にしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1	必ず明日に持ち越さないよう、支援終了後、伝え忘れたことなどは共有ラインで周知するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		保護者への連絡帳に加え、支援日誌に記録し全スタッフが確認できるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		半年ごとのモニタリングに加え、計画変更の必要があれば、保護者と相談し家庭訪問や事業所内相談を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	9		努力している。	障害度や学年にばらつきがあるため、どうしてもスタッフの人数が必要となる。ボランティアや地域の方の協力が得られるとよい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	9		常に念頭に置き、ルールに従わせるだけでなく利用者の意見を尊重するようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		主に管理者又は児童発達支援管理責任者が参加し、事業所で必ず内容の周知を行っている。	会議などの時間が、午後になることが多くサービス提供時間にかかるため他のスタッフの参加が難しい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		利用者が通う学校や、地域の医療機関との提携及び連携を図っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		学校だよりや担当教員との電話で確認を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	5		相談支援専門員との情報共有は積極的にしているが、就学前の利用箇所については必要に応じて情報を求める体制である。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	3		情報提供の依頼があれば、いつでも提供できる体制にある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	3		研修等の案内があれば受講の意思はあるが時間帯が合わなかったり、スタッフ不足のため参加できないことが多い。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	1		児童の希望や活動内容を確認し、積極的に利用したい気持ちはあるが、児童館や地域の公園では嫌理されることがよくある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	1		前向きな参加の意思はあるが、時間が合わないことがよくある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		連絡帳やSNS、電話や送迎時での申し送り等で児童の様子等の情報交換を行っている。またこまめな家庭訪問に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		保護者会等で研修等の情報提供を行っている。また、事業所内や家庭訪問で保護者の気持ちに寄り添い、アドバイス等を行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		最善を尽くしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		読み合わせを行い、不明な点や訂正、書き加え等はその都度再作成している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		いつ何時でも児童発達支援管理責任者と連絡が取れる体制にあり、必要に応じて家庭訪問やオンラインでの対応を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		年1~2回の保護者会を行っている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		その都度対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		HPの活用や年に数回の通信配布を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		鍵付き事務所内の、鍵付き書庫に書類をまとめている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		きわめて細やかな配慮に努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	3	地域への理解を図るための努力はしている。地域の行事への参加はしているが、こちらが主体となる行事については検討中。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		定期的に行っているが、時間が足りない。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	年に数回の避難訓練を実施している。	定期的なマニュアルの見直しや確認が必要であるが、日常業務に追われがちである。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		連絡帳等で保護者より連絡を受け、確認できている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	4	指示書を必要とする児童が今のところいないが、アレルギー反応が起きる可能性があるものについては周知できるようにスタッフの目につくところに掲示している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		研修を定期的に行っているが、訓練としては不足していると感じている。	訓練実施の計画の見直し。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		利用者との契約の際、緊急カードの作成を行い説明している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		朝礼やミーティングの際に共有し、再発防止に向けて確認している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		定期的な研修と朝礼での虐待防止啓発のポイントの読み上げを行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		児童によっては障害特性に合わせて身体拘束を行う可能性を保護者に確認し、同意を頂いている。		